

伊丹福音ルーテル教会 宗教改革主日礼拝のしおり

2021年10月31日

前奏

招きのことば：詩編 46 編 2-4 節

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。
わたしたちは決して恐れない。
地が姿を変え 山々が揺らいで海の中に移るとも
海の水が騒ぎ、沸き返り その高ぶるさまに山々が震えるとも。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたは今朝も御言葉によって私たちに信仰を与え、強めてくださいます。罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただきます。私たちは自由にされて、ここから進んで神様と隣人お仕えする一週の歩みが始まります。500年ほど前にあなたはマルティン・ルターを用いて、聖書の福音があらためて人々の間で正しく覚えられるように導いてくださいました。そして今朝も御言葉を聞く私たちをここから生活の場に送り出してください。日常生活の中でこそ、あなたに導きを受け、あらゆる災いから守られ、更に隣人の力になれるように鍛えていただきます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかねばなりません。その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマ3章19-28節

さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界が神の裁きに服するようになるためなのです。なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書8章31-36節

イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」すると、彼らは言った。「わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして言われるのですか。」イエスは

お答えになった。「はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。奴隷は家にいつまでもいるわけにはいかないが、子はいつまでもいる。だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。

讚美歌 286 番

1. 神はわがちから わがたかきやぐら 苦しめるときの 近き助けなり
2. たとい地はかわり 山はうなばらの 中にうつるとも われいかで恐れん
3. 神のみやこには 静かにながるる きよき河ありて み民をうるおす
4. 御言葉の水は 疲れをいやして 新たなる命 あたえてつきせじ
5. 神のみもとべは 常にやすらげく 苦しみ悩みも 消えてあとぞなき **アーメン**

説教：「真理は自由にする」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

10月31日は宗教改革記念日です。1517年10月31日に、現在のドイツのウィッテンベルクという町で大学で神学を教えていた34歳の修道士マルティン・ルターが、町の大きな教会堂の扉に「九十五か条の提題」といわれる文書を張り出したといわれる日です。翌日が全聖徒の日と呼ばれる日で、その前日に告知したいことを張り出す習慣があったようです。ルターは古い読み方でルーテルと呼ばれました。ルーテル教会はマルティン・ルターの再発見したイエス・キリストの福音を語る教会です。

マルティン・ルターはまじめで熱心な修道士でした。もともとエアフルトという町の大きな修道院におりましたが、ウィッテンベルクの新設大学で神学を教えるように準備を命じられたとき、自分はそんな才能もないし、そんなつもりで修道士になったのではない、と何度も断りました。しかしそれが神様が願っておられることだと受け止めてからすぐに聖書の猛勉強を始めました。

聖書にはイエス様の十字架によってすべての罪が神様に正しく赦される、洗礼によってその赦しにあずかる、そして洗礼によってイエス様の復活のいのちにもあずかって、日々新しい神様の子どもとして、罪と死と悪魔の力から解放されて自由に生きることが記されています。今日の読まれたヨハネの福音書でも「真理であるイエス様を知るとあなたがたは自由になる」と約束されています。

それは、わがままに生きて、後悔と言いついに始終する生き方ではありません。そのような罪の力から自由になって神様と人を愛して生きていく生き方です。人生には様々な困難があります。

人の目や失敗を恐れたり心がとまってしまったりせず、安心して確信をもって生きていきます。何事もあきらめたり逃げたりせず、ものごとの中心に向き合って落ち着いて乗り切っていきます。また、自力でがむしゃらにがんばって時間にも心にも余裕がない生き方ではなく、神様の与えてくださる確かな約束にだけすべての望みをおいて、しっかり生き生きと生きていくことです。それはまた、立場や実績に安泰したり、あるいは立場や実績を得ようとがんばる生き方からの解放です。むしろ、自分の置かれているところで、自分のような罪びとにも与えられるイエス様による救いのすばらしさを動機にして、自分を抑え、神様を喜びたたえ、人々の役に立っていく生涯です。

ルターの生きていた当時の人々は、聖書の神様は私たちに罪を指摘して、私たちが心を変えて正しい人間になるように願っておられると教えられていました。神様に喜ばれるように歩むだけではなく、がんばってこれまでの罪滅ぼしをして、犯してきた罪を神様の前で償っていくようにと教えられていました。悔い改めたらがんばって償いの精進を重ねていき、死ぬときまでに償いきれなかったら子どもたちが自分の分もがんばってくれるということです。

しかし、ルターは聖書にはそうではないことが書いてあると気付きました。確かに神様が私たちの罪を指摘します。しかしそれは私たちが自分の力で罪の性質をどうにもできないことを知るためです。そのままではほんとうの人間の幸せを知らずに滅んでしまうからです。それで、私たちは悔い改めます。そしてイエス様を信じます。イエス様が私のために十字架の上で死んでくださって、わたしの代わりにすべての罪の償いをしてくださったこと、さらに私のためによみがえってくださって新しい神の子としてのいのちを与えてくださることを信じるこの信仰によって、罪の赦しと新しい命をいただきます。

この素晴らしい聖書の真理を、大多数の人々は、以前のルター自身のように全く知らされていないことにルターは愕然としました。神様が喜んでお与えくださろうとしている罪の赦しと新しい命を、こんなに聖書に近く歩んでいるはずの人々が、まだ何も知らないでいる。そこで、そもそも体制に反発するような人ではなかったルターですが、再発見した聖書の真理とその真理の前に私たちがすべきことを「九十五か条の提題」にこめて、人々に告知をしたのです。

今朝読まれましたヨハネの福音書の中で、イエス様はご自分を信じたユダヤ人たちには、まだ心のうちに依り頼んでいたプライドがあることを見抜いておられました。自分たちがアブラハムの子孫であるというプライドです。自分たちはその昔神様から選ばれた偉大なアブラハムの子孫であって、私たちはその子孫として特別な立場の人間である、と考えていたのです。プライドの奴隷になっている人は自分の罪を軽く見ます。自分たちは誰の奴隷になったこともない。罪を犯してしまうこともあるが、自分の罪などおおきな問題ではない、と根拠のない自身で身を守っています。実はそのアブラハムもひとりの人として、やがて来る救い主を待ち望んで歩んでいました。イエス様はすべての人の救い主として来てくださいました。神様が私たちによくわかるように私たち自身の罪の性質や自分中心な行いを示してくださるのは、私たちが自分

の力を過信せず、素直に悔い改めるためです。自分の立場、自分の実績、自分の努力、自分の可能性など、自分を守ろうと握りしめていたものを、これは本来頼りにならないものだと感じて、そっと手放すためです。悔い改めるためなのです。

ルターが本当にウィッテンベルクの教会の扉に「九十五か条の提題」を書いた一枚の文書を張り出したのか、それともそのような文書をお殿様に対して送ったのか、歴史家たちはまだ研究をやめていません。しかしその「九十五か条の提題」の文書の第一条はこのような言葉で始まっています。

「我らの主であるイエス・キリストが『悔い改めよ(マタイ 4:17)』といわれたとき、イエスは私たち信じる者ひとりひとりの生涯すべてが悔い改めであることを意味しておられた。」

私たちの生涯は悔い改めの連続です。それは罪びとである自分の力に頼らずに、悔い改めてイエス・キリストの救いに信頼することです。ルターはそのあと、当時の人々が頼りにしていた免罪符を買うことなどによっては、神様の前に罪が赦されることはなく、むしろそれによってますます人の心は悔い改めから遠ざかると警告しました。さらに神様に信頼することをせず、自分の立場や努力や可能性に依存して生きながら、滅びていくことになるからです。

私たちは今日も明日も、生涯にわたって、悔い改めて、私たちが罪と死と悪魔の力から解放してください。イエス様に信頼をして歩んでまいりましょう。イエス様を喜び、人々と幸せを分かち合い、自分のわがままを抑えて歩みましょう。

ルターは自分の立場でできる精いっぱいのことをしましたが、だからといって世界の歴史を変えるようなことは考えていませんでした。しかし、宗教改革によって社会は変わり、世界は変わり、多くの人の人生に計り知れない喜びを与えていきました。宗教改革記念日はルターの個人的業績をたたえるということではなく、神様が与えてくださるイエス様の福音による自由を、あらためて味わって感謝する機会です。私たちも自分の立場でできる精いっぱいをしていきましょう。ヨハネの福音書に出てくるユダヤ人のようにプライドに固まって自らの立場を守る偽りの安心と不自由さから私たちは解放されています。家庭の中での使命、社会生活の中での使命、教会で信頼されて託されている持ち場であって、よりよく神様と人々にお仕えできるように、悔い改めて信頼し、工夫をして成長していきましょう。

「だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる」ヨハネ 8:36

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあつて我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあつて我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン
だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあつて我らは歩む。 ※

讃美歌 267 番 献金 献金感謝の祈り

1. 神はわがやぐら わが強き盾 苦しめる時の 近き助けぞ
おのが力 おのが知恵を 頼みとせる 陰府(よみ)のおさも などおそるべき
2. いかにも強くとも いかでか頼まん やがては朽つべき 人の力を
われと共に 戦い給う イエスキミこそ 万軍の主なる あまつおお神

3. 悪魔世に満ちて よしおどすとも 神のまことこそ わが内にあれ
陰府のおさよ 吼え猛りて 迫りくとも 主の裁きは 汝が上にあり
4. 暗き力の よし防ぐとも 主のみことばこそ 進みに進め
わがいのちも わが宝も 取らば取りね 神の国は なおわれにあり **アーメン**

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏